

・ 調査結果の要約

1. 家族の姿

乳幼児から17歳までの子どもがいる家族の世帯構成は、いずれの年代も核家族世帯が最も多く、約80%を占めている。

きょうだいの状況は、2歳では「ひとりっ子」もしくは「2人」がそれぞれ約40%を占めている。5歳以上になると「2人」が50%前後と最も多く、次いで「3人以上」となっている。また、「ひとりっ子」は、5歳では15.6%、小3では10.0%、小6以上では6~7%となっている。

保護者の就労状況は、父親はいずれの年代も「仕事(フルタイム)」「自営業(家事手伝いを含む)」「仕事(パート・アルバイト)」をあわせると、90%以上を占めている。一方、母親は、小6までは「専業主婦(夫)」が最も多く、2歳、5歳では60%以上を占めている。年代が上がるとともに「仕事(パート・アルバイト)」が増加し、小6以上では「専業主婦」「仕事(パート・アルバイト)」がそれぞれ30~40%を占めている。また、「仕事(フルタイム)」は各年代で10%前後となっている。

朝食摂取状況は、いずれの年代も「毎日食べている」が最も多くなっている。小3以上はその割合がやや減少し、「食べない日もある」が約20%を占め、「ほとんど食べない」という回答も年代が上がるとともに増加傾向となっている。

子どもの夕食の相手は、「母親」が最も多く、小6までは約90%、中2以上も約80%を占めている。これに次いで「きょうだい」が多く、年代が上がるとともにその割合も増加しているが、中2以上は再びその割合が減少している。「父親」については20~40%程度を占め、「ひとりで」という回答は小3で3.4%、小6で3.3%、中2で12.6%、17歳で16.2%を占め、中2以上になると割合が高くなっている。

子どもの帰宅時に家にいる人は、年代に関係なく「母親」が最も多く、小3で76.3%、小6で62.8%、中2で61.7%を占めている。次いで「きょうだい」が多く、40~50%程度を占めている。一方「だれもいない」という回答も各年代で約20%となっている。

親の帰宅後の子どもとの会話は、いずれの年代も母親は80%以上と大部分が「よくある」と回答している。一方、父親は母親に比べてその割合は低いものの、2歳では60%以上、5歳から小6までは約50%、中2以上では約40%を占めている。

父親が休みの日(共働きの場合は両親が休みの日)や子どもが休みの日の過ごし方として、2歳から小6では年代にかかわらず「食事や買い物に出かける」が最も多く、80%以上を占め、これに次いで、2歳、5歳では「家で過ごす」「近くの公園などで遊ぶ」、小3、小6では「家でテレビやビデオを見る」「話をする」となっている。

親の好き嫌いは、父親母親ともに各年代を通じて好きと回答した人(「好き」+「まあまあ好き」)が多く、小3では60%以上、小6では50%以上、中2では40%以上を占め、いずれの年代も父親に比べて母親の割合が高くなっている。父親母親ともに年代が上がるにつれて「好き」の回答割合は減少し、「好きだけど嫌いなときもある」の回答割合が増加し、「あまり好きではない」「嫌い」の回答もわずかではあるが増加傾向がみられる。

親の好きなのは、年代に関係なく両親に共通して多かったのは「やさしい」となっている。ほとんどの項目で、父親よりも母親の割合が高く、なかでも「困ったときは相談できる」「困った時には相談にのってくれる」「信頼できる」や、「いるとほっとする」「いると落ち着く」は年代が上が

るにつれて、父親と母親の開きが大きくなっている。反対に、母親よりも父親の割合の方が上回っていたのは、「欲しい物を買ってくれる」「いっしょに遊んでくれる」「いろんなことができる」「仕事や地域で頑張っている」となっている。

親の嫌いなところは、各年代を通じて父親母親ともに「こわい」「よく怒る」「忙しすぎる」「うるさく口出しする(口を出す)」などが多く、これに加えて17歳では「意見や価値観を押し付ける」も多くなっている。小3では両親が同じ傾向を示しているが、年代が上がるにつれて父親と母親の差がみられるようになる。「他の子と比べる」「うるさく口を出す」は父親よりも母親の割合が高く、17歳では「人柄・性格がいや」「信頼できない」「尊敬できない」「家で何もしない」が母親よりも父親の割合が高くなっている。また、小6で105人、中2で100人、17歳で39人が親から暴力を受けていると回答している。一方、「特にない」という回答も高く、小6以上では30%前後となっている。

2. 地域とのかかわり

子どもの地域活動への参加状況は、小3、小6では半数以上が「参加している」と回答しているのに対し、それ以外の年代では「参加していない」人が65%以上を占めている。参加している活動内容は、2歳では「子育てサークル」(19.6%)、5歳では「その他」(78.4%)、小3、小6では「こども会」(39.4%、33.0%)「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」(22.2%、27.9%)、中2では「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」(18.4%)、17歳では「スポーツ・趣味などのサークル活動」(34.9%)となっている。

地域活動に参加して思うことは、年代にかかわらず「やっていることが楽しい」が最も多く、小6で70.3%、中2で69.6%となっている。次いで「友だちといっしょで楽しい」「体が丈夫になる」「いろいろな人と会えて楽しい」となっている。

地域活動に参加していない理由は、「なんとなく」が最も多く、小6で43.1%、中2で45.7%を占めている。次いで、小6では「遊ぶ時間がへる」「どんなことをするのかわからない」が約20%で続き、中2では「忙しくて行く日がない」「遊ぶ時間がへる」が25~30%で続いている。

一方、保護者が子育てをする中で活動にかかわってきた経験は、「現在、かかわっている」「以前、かかわったことがある」をあわせてかかわった経験のある人は、各年代を通じて約90%を占めている。かかわった活動内容は、年代にかかわらず「PTA」が85~90%と最も多く、次いで「こども会」が50~60%程度を占めている。

活動にかかわって良かったことを(保護者に)聞いたところ、小6、中2で共通して多かったのは「学校や地域などの情報が得られた」「親の友だちが増えた」「先生・先輩・地域の人・行政の人と知り合えた」で、いずれも60%以上を占めている。反対に、活動にかかわって困ったこと・良くなかったことは、いずれの年代も「忙しかった」が最も多く、50%以上を占めている。また、活動自体を評価している「活動自体が楽しかった」「やりがいがあった」は20~30%程度を占めている。反対に、「活動自体が負担だった」という回答は各年代で約10%を占めている。

また、これまで活動にかかわらなかった理由は、年代にかかわらず「時間的余裕がなかった」が最も多く、小6で48.0%、中2で43.5%、17歳で51.3%を占めている。次いで「機会がなかった」「家庭の事情」などが多くなっている。

保護者の近所付き合いの状況は、「何か困った時に助け合う人がいる」「お互いに訪問し合う人がいる」は各年代を通じて40~50%程度を占めているが、2歳では最も低くなっている。その一方で、いずれの年代も「立ち話をする程度の人がいる」「あいさつする程度の人がいる」という回答が50%以上を占めており、小3以上では70%以上となっている。

保護者が地域の子どものためにできることは、年代にかかわらず「道で会ったときに、あいさつなど声をかける」が最も多く、80%以上を占めている。次いで「他人の子どもでも、危険なことや悪いことをしていれば注意する」「他人の子どもでも、良いことをしたときにはほめる」「近所の子どもの顔と名前を覚える」などが多く、いずれも50%以上を占めている。

子どもが地域の大人に対して望むことは、いずれの年代も「子どものことをあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい」「特にない」が多く、約30%を占めている。これに次いで、「子どもあつかいしないで、子どもの意見をしっかり聞いてほしい」「道で会ったときには、声をかけてほしい」「良いことをしたときには、ほめてほしい」「わからないことやできないことがあったときには、教えてほしい」となっている。

3. 子どもの状況

子どものふだんの居場所は、年代に関係なく最も多かったのは「自分の家」「家の庭や家のまわり」で、次いで、2歳から小3までは「公園や広場」、5歳から小6にかけては「友だちの家」が約50%を占めている。小6以上になると、「塾や習いごとの場所」が増えはじめ、中2では「学校の運動場・体育館・教室」「体育館・グラウンド・プールなど」「コンビニ」が増加している。

ふだんの過ごし方については、各年代を通じて多かったのは「テレビやビデオを見る」で、次いで、2歳では「室内の遊具やおもちゃで遊ぶ」「絵本などを見る」、5歳では「おもちゃ(カード・シール)で遊ぶ」「絵を描いたりして遊ぶ」、小3では「自転車、一輪車、ローラースケート、キックボードに乗る」「テレビゲームをする」、小6では「テレビゲームなどで遊ぶ」「本やマンガ、雑誌などを読む」「塾や習いごと」、中2では「部活動をする」となっている。また、小6以上になると「のんびりする」が約40%を占めており、上位項目にあげられている。

平日の生活時間については、家庭での勉強時間が「なし」という回答が小学生では1%に対し、中2以上では25~30%を占めている。反対に、塾や習いごとの時間は小学生では「1時間ぐらい」に対し、中2では「2時間ぐらい」と時間が長くなっている。テレビゲームをする時間は、いずれの年代も「なし」が最も多くなっているが、年代が低いほどテレビゲームをする割合が高くなっている。

ふだん過ごす相手は、2歳では「母親」が81.6%と最も多く、次いで「きょうだい」「友だち」となっている。5歳になると、母親の割合が約50%に減少し、「きょうだい」「友だち」が75~80%を占めている。小3、小6では「同じクラスの友だち」(70.2%、69.7%)、中2になると「部活の友だち・先輩・後輩」(61.7%)が最も多くなっている。

ふだん過ごす人数は、2歳、5歳では「2~3人」が最も多く、70%以上を占めている。一方、「ひとりで」という回答は、5歳、中2の割合がやや低くなっているが、各年代を通じて20%前後を占めている。

休日の過ごし方は、小3では「家族で出かける」が54.0%、「いつもと同じように遊ぶ」が52.6%

と特に多く、次いで「のんびりする」「勉強する」となっている。小6以上になると、「のんびりする」が55～60%と最も多く、「平日と同じ遊びをする」「買い物をする」が次いで多くなっている。これに加えて、中2では「部活動をする」が46.5%を占めている。

何でも話せる友だちの数は、同性では、いずれの年代も、「5人未満」が最も多く、次いで「5人以上10人未満」、また、「いない」という回答も6～9%程度みられる。一方、異性では、いずれの年代も、「いない」が55%以上を占めており、いる場合でも「5人未満」が多くなっている。

異年齢の子と遊ぶことは、小3、小6ともに同じ小学生と遊ぶ割合が高くなっているが、中2では小学生から高校生もしくはそれ以上と遊ぶ相手が広がっている。また、年代が上がるにつれて、「遊ぶことはない」という回答が増えており、中2で30.0%を占めている。

友だちとのケンカの経験は、小3、小6ともに「ある」が最も多く、小3で85.5%、小6では91.0%を占めている。友だち同士のケンカに対する考えは、小3では「やっぱりケンカはよくない」が31.7%と最も多く、次いで「友だちだからケンカしても当たり前」となっている。小6になると、「やっぱりケンカはよくない」の回答割合が減少し、「友だちだからケンカしても当たり前」が26.3%と最も多くなっている。

他の子と意見が合わないときの対処方法は、「自分の意見を言って、相手の子と話し合う」が、17歳では72.0%、中2では55.9%を占めている。中2では、次いで、「相手の意見に従う」「意見を言うのをやめる」という回答も各15%程度を占めている。

いじめられている子を見た時の対処方法は、小3では「いじめをやめるよう、注意する(いじめた子に注意する)」「先生に知らせる」「いじめられている子に声をかける」が40～50%を占めているが、小6以上になると「他の友だちに知らせる」という回答が増え、中2では最も多くなっている。また、年代が上がるにつれて「見て見ぬふりをする(だまって見ている)」という回答も増えており、中2では約20%を占めている。

塾や通信教育(家庭教師を含む)の状況は、小6、中2ともに「している」が最も多く、小6では61.3%、中2では77.5%を占めている。塾や通信教育をさせている理由は、いずれの年代も「成績を上げるため」「学校の勉強だけではよくわからないから(ついていけないから)」が多く、中2は小6に比べて「成績を上げるため」が約10ポイント、「学校の勉強だけではよくわからないから(ついていけないから)」が約20ポイント高くなっている。次いで、中2では「希望する高校に行けるように」が34.4%、どちらも「本人が強く希望するから」が25～30%を占め、多くなっている。

習いごとの状況は、2歳では「していない」が大部分を占めている。5歳以上になると「している」の回答割合は大幅に増え、5歳で58.6%、小3で87.6%、小6で77.4%を占めている。中2になると「していない」人が49.7%を占めるようになり、「している」人(42.2%)を上回っている。習いごとの内容をみると、5歳以上では「スイミング・サッカー・野球などスポーツ関係」や「ピアノ・バイオリンなど音楽関係」が多くなっている。

保護者が習いごとに通わせている理由は、2歳では「情操を豊かにするため」「体力づくりのため」「子どもの個性を伸ばしたいから」がいずれも40%以上を占め、特に多くなっている。5歳から小6にかけても引き続き「体力づくりのため」が多く、それ以外に「子どもがやりたいと言ったから」が半数以上を占めている。これ以外に小3では、「子どもに自信を持たせるため」も約40%を占め

ている。

子どもが習いごとをして思うことは、良かったこととして、小3、小6では「友だちがふえた」「今までできなかったことができるようになった」「学校で役に立った」などが多く、中2では「自分の能力が高まった」「いろんな人と出会えた」「趣味が増えた」「友だちが増えた」などが多くなっている。一方、困ったこと・良くなかったこととして、いずれの年代も「忙しくなって、遊ぶ時間がへった」「忙しくなった」が20~30%を占め、最も多くなっている。また、小3では「とくにない」という回答が57.9%を占めている。

中2、17歳の子どもの情報の入手方法は、いずれも「テレビ」が最も多く、中2で88.6%、17歳で89.8%を占め、次いで、「友だちの会話」「本・雑誌」となっている。また、「新聞」「親との会話」から情報を入手する子どもは、中2に比べて17歳の割合が高くなっているが、40~50%となっている。

悩みや心配ごとは、「勉強や成績のこと」が多く、年代が上がるにつれてその割合は増加し、中2以上では60%近くを占めている。17歳ではこれを上回って「将来のこと」が67.4%を占め、第1位となっている。また、年代が上がるにつれて「お金のこと」「異性のこと」「自分の容姿(顔や体格)のこと」の回答割合が増加している。一方、「特にない」と回答した子どもは小3で38.1%と最も高く、年代が上がるにつれてその割合は減少している。

子どもの悩みの相談相手は、小学生では「母親」が最も多く、小3で72.6%、小6で62.5%を占めている。次いで、小3は「父親」が多くなっているが、年代が上がるにつれてその割合は減少し、反対に、「友だち」に相談する割合が増加しており、小6で52.1%、中2で59.9%、17歳で76.5%を占めている。一方、「だれにも相談しない」という回答も10~20%程度を占めている。

現在学校に通っている子ども(17歳)の学校生活の満足度は、「楽しい」「まあまあ楽しい」をあわせた楽しいと感じている子どもは79.4%を占めている。現在働いている子ども(17歳)の職業生活の満足度は、「楽しい」「まあまあ楽しい」をあわせた楽しいと感じている人は81.8%を占めている。現在の生活の充実度は、「ある程度充実している」「充実している」をあわせた充実していると感じている子どもは71.3%を占めている。充実していると感じる時は、「友人や仲間といるとき」が80.7%と最も多く、次いで「趣味に打ち込んでいるとき」「スポーツに打ち込んでいるとき」となっている。いま関心のあることは、「音楽」が72.4%と最も多く、次いで、「本・雑誌」「ファッション(流行)」「スポーツ」「異性との付き合い」などが続いている。一方、「政治や経済」「ボランティア活動」「伝統芸能」「学校外のサークル活動」「地域の行事や催し」については10%未満と関心が低くなっている。



4. 親の状況

困ったときや用事ができたとき、外出したいときに子どもを預ける相手は、2歳、5歳ともに「父母(子どもの祖父母)」が最も多く、2歳では67.9%、5歳では63.8%を占めている。次いで「配偶者(夫や妻)」が多く、ともに55%を占めている。これ以外に、5歳では「子どもを通じての友だち」と回答している人が49.4%を占めている。また、「デパートなどの一時預かり」「ファミリーサポートセンター」などのサービスを利用している人はいずれも5%未満となっている。

子育ての悩みの相談相手は、いずれの年代も「配偶者(夫や妻)」が最も多く、75~90%を占め、次いで、「父母(子どもの祖父母)」「子育てを通じて知り合った友人・知人」となっている。そして、5歳では「保育所・幼稚園の先生」、小3から中2にかけては「学校の先生」に相談する人が20~30%を占めているが、その他公的機関、相談機関等に相談する割合はいずれも低くなっている。一方、各年代において約10%は「自分で解決する」と回答している。

子育てに関する情報源は、2歳、5歳ともに最も多かったのは「友人・知人」となっており、約80%を占めている。次いで、2歳では「育児書・育児雑誌」「父母(子どもの祖父母)を通じて」「テレビ・ラジオ」、5歳では「保育所・幼稚園の先生」「テレビ・ラジオ」となっている。また、「その他公民館・図書館などの公的機関からの情報」は数%、「講座・シンポジウム・講演会からの情報」は10%程度と割合が低くなっているが、「広報(もみじだより)」については35~40%を占めている。

いじめについて子どもから聞いた経験は、「聞いたことがある」と回答した人は、小3から中2にかけては約10%、17歳になると30.6%を占めている。いずれの年代も「いじめは受けていないと思う」が最も多く、小3から中2にかけては約80%、17歳では58.4%を占めている。その時の対処方法は、いずれの年代も「子どもと今後のことについて話し合った」が最も多く、小3で64.5%、小6で73.4%、中2で73.5%、17歳で62.6%となっている。これに次いで、小3では「子どもに強くなるように言った」が多くなっているが、年代が上がるにつれてその割合は減少している。小6以上になると「学校の先生に相談した」が60%前後を占め、多くなっている。

5. 子どもの考え方・親の考え方

地域の人に叱られた時に思うことは、「悪いと思って、あやまる」は小3で38.8%、小6で33.4%を占め、最も多くなっている。しかし、年代が上がるにつれてその割合は減少し、かわって「何を怒られているのかよくわからない」「腹がたつ」の回答割合が増加している。中2になると、「悪いと思って、あやまる」「しかられたくはないので、同じことはしないようにしようと思う」「腹がたつ」がそれぞれ25%程度を占めている。

自尊感情は、「自分の気持ちをわかってくれる人がいる」は、各年代を通じて、「はい」と回答した子どもが多く、60%以上を占めている。「私は幸せである」は、いずれの年代も「はい」の回答が最も多く、小6、中2では約50%、17歳では58.7%を占めている。しかし、一方で「わからない」と回答している子どもが30~40%を占めている。「他人にどう思われているのが気になる方だ」は、いずれの年代も「はい」の回答が最も多く、小6、中2では約60%、17歳になると71.2%を占めている。「家出をしたいと思ったことがある」は、小6では「いいえ」が46.8%を占めており、「はい」(42.0%)と回答した子どもをやや上回っている。中2以上になると、「はい」の回答割合が増え、約50%を占めている。「自分のことが好きである」は、「はい」と回答した子

どもは、小6、17歳では約30%、中2ではその割合がやや低く、24.8%となっている。しかし、「いいえ」の回答が20%前後を占め、いずれの年代も「わからない」が最も多く、40~50%を占めている。「何かひとつでも自慢できることがある」は、各年代を通じて「はい」と回答した子どもが50%以上を占めている。

夢を実現するための努力は、年代にかかわらず「友だちを大切にする」「友だちなど人間関係を大切にする」が最も多く、小6で47.6%、中2で42.7%、17歳で52.0%を占めている。次いで、「勉強」「スポーツ」「習いごと」「技術・資格の習得」などが多くなっているが、17歳になると「スポーツに力を入れる」の回答割合が減少している。一方、「特に何もしない」「特に努力はしていない」と回答した子どもは、小6で9.7%であったのに対し、中学2年生では20.2%、17歳では17.4%と約2倍に増加している。

保護者が子どもと意見が対立した時の対応は、いずれの年代も「親と子でとことん話し合い、折り合い点を見つける」が最も多く、約60%を占めている。また、年代が低いほど「強引に親の意見に従わせる」の回答割合は増加している。

将来望む生き方や暮らし方は、親では、いずれの年代でも「身近な人との愛情を大事にしてほしい」「豊かな経験をしてほしい」という項目の割合が高くなっている。子どもでは「感動できる体験をしたい」「多くの人と出会いたい」「身近な人との愛情を大事にしていきたい」という項目の割合は親に比べると低くなっている。しかし、17歳になるとその割合が増えており、親子ともに望む人が多くなっている。

同年齢の子どもの行動に対する考えは、以下の通りである。

法的に未成年では禁止されている項目 『 たばこを吸う』 『 お酒を飲む』

親は年代にかかわらず「絶対にしてはいけない」という回答が多くなっているものの、子どもの場合は、年代が上がるにつれて「絶対にしてはいけない」という回答から「あまりよくないと思う」「個人の自由である」という回答に変化している。年代が上がるにつれて親子に意識の違いがみられる。

一般的によくないと認識されている項目 『 親に無断で外泊する』 『 人の物を勝手に使う』
『 授業中に勝手に席を離れる』

親は「絶対にしてはいけない」という考えが多く、子どもは「絶対にしてはいけない」「あまりよくないと思う」という考えが多くなっていることから、程度の差はあるものの親子ともによくないことと認識している。しかし、『 授業中に勝手に席を離れる』については子どもの場合「その時による」という回答も多く、親子に意識の違いがみられる。

公衆道徳に関わる項目 『 電車の中やコンビニの前などで地面に座る』 『 公共の場で携帯電話やPHSを使う』

親は「絶対にしてはいけない」「あまりよくないと思う」という回答が多くなっているのに対し、子どもは「あまりよくないと思う」と回答している一方で、「個人の自由である」という回答も多く、親子で少し意識のずれがみられる。

判断のつきにくい項目 『 友だちにアイスなどをおごる』 『 髪を染める』 『 化粧をする』 『 ピアスをあける』 『 友だちとゲームセンターやカラオケボックスに行く』 『 友だち同士で旅行する』 『 学校帰りにコンビニなどに寄り道する』

性に関する項目 『ポルノ映画(ビデオ)・雑誌を見る』『異性との性行為』

親の場合、項目によって違いがみられるものの、基本的には「絶対にしてはいけない」もしくは「あまりよくないと思う」という回答が多くなっている。しかし、『友だちとゲームセンターやカラオケボックスに行く』『友だち同士で旅行する』『学校帰りにコンビニなどに寄り道する』では、中2以上になると「その時による」が多くなっている。これに対し、子どもは、いずれの年代も「個人の自由である」が多くなっている。各年代を通じて親子の意識に違いがみられるものの、小6では「絶対にしてはいけない」もしくは「あまりよくないと思う」という回答が他と比較して多くなっていることから、親子の意識が一致する傾向もみられる。

6. 箕面市の施策

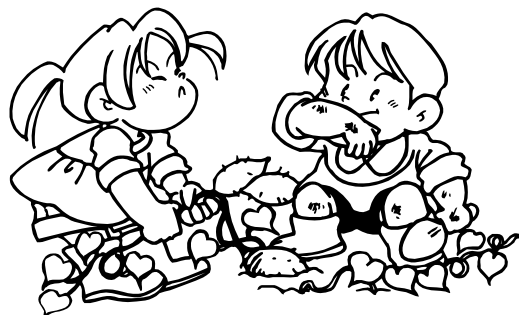
乳幼児の保護者に対して保育所についてたずねたところ、良いところは、年代にかかわらず「いろんな遊びや体験ができる」「仕事と子育ての両立ができる」「集団生活で社会性が身につけられる」「異年齢の子どもとのふれあいができる」などが上位となっている。

反対に、気になる・困ったところとしては、年代にかかわらず「保育料が高い」が最も多くなっている。次いで「希望する保育所に空きがなくて入れない」「保育時間が短い」が多く、「希望する保育所に空きがなくて入れない」は5歳(20.9%)に比べて2歳(27.2%)の割合が高くなっている。また、5歳ではこれに並んで「日曜日・祝日に利用できない」(20.9%)も多くなっている。

5歳の保護者に対して幼稚園についてたずねたところ、良いところとしては、「いろんな遊びや体験ができる」(88.8%)、「集団生活で社会性が身につけられる」(82.3%)、「生活のリズムが整えやすい」(80.8%)、「子ども・親ともにいろんな友だちができる」(76.9%)などが多くなっている。また、「給食がある」「送迎バスがある」は私立の割合が、「保育料が安い」は公立の割合が高くなっている。一方、気になる・困ったところとしては、「保育料が高い」(34.4%)、「保育時間が短い」(31.1%)が多く、ともに約30%を占めている。

理想の子ども数よりも現在の子ども数が少ない人にその理由をたずねたところ、2歳では「まだこれからだから(産むつもり)」が52.1%と最も多くなっている。5歳以上では「子育てのための経済的負担が大きいから」が最も多く、2歳でも2番目に多い理由となっている。

現在就労していない親に対して、保育環境が整った場合の仕事の意思をたずねたところ、2歳では、「したい」と回答した人が58.8%と半数以上を占めている。5歳になるとその割合は減少し、「したい」が47.5%、「したくない」が46.6%と意見は2分している。



一時保育の利用状況を見ると、「登録して利用した」もしくは「利用した」と回答した人は、ファミリーサポートセンターでは2歳が3.1%（24人）、5歳が2.3%（17人）、保育所の一時保育では2歳が1.4%（11人）、5歳が2.2%（16人）となっている。ファミリーサポートセンターで「登録したが、利用していない」「登録していない」と回答した利用していない人、保育所の一時保育で「利用していない」と回答した人は、ともに80%前後を占めている。

一時保育を利用していない人にその理由をたずねたところ、年代に関係なく「必要とする事態が生じなかった」「身近に助けてくれる人がいる」といった必要としなかった理由が多くなっている。また一方で「この事業を知らなかった」という理由も多く、どちらの事業も約40%を占めている。

子どもの身近な公園や広場などの遊び場についてたずねたところ、小3、小6ともに96%が「ある」と回答している。その遊び場の利用頻度は、いずれの年代も「ときどき利用する」が最も多く、「よく利用する」をあわせた利用している人は小3で82.2%、小6で77.5%を占めている。小3は小6に比べて「よく利用する」の回答割合が高くなっている。

子どもの身近な遊び場として求めるものをあげてもらったところ、小3、小6ともに「アスレチックなど巨大な遊具があり、冒険できる大きな公園」「ありのままの自然が残され、虫や鳥などとふれあえるところ」「雨の日でもボール遊びをしたり、走りまわることのできる場所」、これに加えて小6では「野球やサッカーなどができる広くて安全なグラウンド」がいずれも50%以上を占め、特に多くなっている。また、小3は小6に比べて「砂場やブランコなどがある歩いていける身近な公園」の回答が約10ポイント高く、28.6%を占めている。遊び場として、子どもの成長にしたい、球技等のできる広さの確保を求めている。

箕面市に対して望むことをあげてもらったところ、保護者では、いずれの年代も「子どもが自由に遊べる安全な遊び場を増やしてほしい」が最も多く、2歳から小3では約75%、小6では65.0%、中2では54.2%を占めている。次いで「野外活動や自然体験ができる機会や場所を増やしてほしい」「公民館・運動場など市の施設が利用しやすいようにしてほしい」などが多く、これに加えて2歳では「幼稚園など安全に遊べる施設が気軽に利用できるようにしてほしい」も多くなっている。また、小6以上では「公民館・運動場など市の施設が利用しやすいようにしてほしい」が約50%、小3以上では「外国人とふれあう機会がほしい」が20%以上を占め、どちらの項目も年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

一方、子どもは、年代にかかわらず「子どもが自由に遊べる安全な遊び場を増やしてほしい」が最も多く、小6で67.1%、中2で48.2%を占めている。次いで「公民館・運動場など市の施設が利用しやすいようにしてほしい」が多く、小6で41.5%、中2で33.8%を占めている。どちらの項目も中2に比べて小6の割合が高くなっている。

